

UKIYO-E

1867年、パリで開催された万博をきっかけに、ジャポニズムと呼ばれる日本ブームが起こりました。浮世絵を扱う画廊も設立され、日本の浮世絵が世界的に注目されるようになりました。プレイヤーは浮世絵を扱う美術商となり、浮世絵の個展を開いて成功を収めることを目指します。

プレイ人数: 2~4人 / プレイ時間: 20分 / 対象年齢: 10歳以上

内容物

浮世絵カード: 70枚
(以降、単に「カード」と呼びます)



ゲームの概要

各プレイヤーはパリの美術商となり、浮世絵カードを集めます。同じ絵師のカードを2枚以上集めることで、それらのカードを自分の前に公開してその絵師の個展を開くことができます。ゲーム終了時、各プレイヤーは自分が開いた個展から得点を得られます。ただしゲームはそれほど単純ではありません。自分が開いている個展と同じ絵師のカードを誰かがより多く集めた場合、その絵師の個展を開く権利を奪われてしまうのです。ゲームは全部で3ラウンド行い、最も多くの得点を得たプレイヤーが勝者となります。

浮世絵カード



【存在枚数】 赤枠内の数は、その絵師のカードが全部で何枚あるかを示しています。例えば広重のカードは16枚あり、師宣のカードは4枚しかありません。存在枚数が多い絵師のカードほど、得点の幅も広がっています。

ラウンドの準備

- ① 全ての浮世絵カードを裏向きにしてよくシャッフルします。
- ② 各プレイヤーにカードを裏向きのまま5枚ずつ配り、これを各自の手札とします。手札は互いに見えないように持ってください。
- ③ 残りのカードは裏向きのまま1つにまとめ、山札としてテーブルの中央に置きます。
- ④ 山札の隣に、捨て札置き場用のスペースを空けておきます。



ラウンドの流れ

最年少のプレイヤーがスタートプレイヤーとなります。スタートプレイヤーから時計回りの順に、各プレイヤーが手番を行います。手番では、以下の2つのアクションをこの順番で行います。

- ① カードを2回引く
- ② カードを1枚捨てる または 個展を開く

① カードを2回引く

手番プレイヤーは以下の2つの場所から1つを選び、カードを1枚引いて手札に加えます。

- ・ 山札の一番上
- ・ 捨て札置き場の一番上

これを2回続けて行います。2回続けて同じ場所を選ぶことも、別々の場所を選ぶこともできます。ただし、ラウンド開始時などで捨て札置き場にカードがない場合や、ゲームが進んで山札にカードがない場合は、カードがある場所しか選ぶことができません。

② カードを1枚捨てる または 個展を開く

カードを2回引いた後、手番プレイヤーは「2-a カードを1枚捨てる」「2-b 個展を開く」のどちらかを選んで行います。

2-a カードを1枚捨てる

「2-b 個展を開く」を行えない(あるいは行いたくない)場合、手番プレイヤーは手札からカードを1枚選んで捨て札にしなければなりません。

捨て札にしたカードは、捨て札置き場の一番上に重ねて出します。既に捨て札置き場にカードがある場合は、下になるカードがなるべく見えなくなるように重ねます。

捨て札置き場に出したカードは、以降の手番で誰かに取られるカードになることがあるため、どれを捨てるかを慎重に選ぶとよいでしょう。

2-b 個展を開く

絵師を1人だけ選び、自分の手札からその絵師のカードを自分の前に出すことで、その絵師の個展を開くことができます。

個展を開くためには、裏面のルールに従わなければなりません。

【個展を開くためのルール】

- ・選んだ絵師のカードを、2枚以上同時に手札から出さなければなりません。このとき、同じ絵が描かれたカード(得点が同じカード)が2枚以上あってもかまいません。出したカードは必ずして重ねて置いておき、カードの枚数と、そのうち一番得点が低いカードが全員によく見えるようにしなければなりません。
- ・選んだ絵師の個展をまだ誰も開いていない場合、何枚同時に出すかを自由に決めることができます。
- ・選んだ絵師の個展を既に誰か(自分自身を含みます)が開いている場合、その絵師の個展の現在のカード枚数を上回るように出さなければなりません。このとき、上回られたプレイヤーの個展にある全てのカードは、すぐに捨て札置き場に表向きで捨てなければなりません(つまり1人の絵師の個展が、同時に2つ以上開かれることはありません)。どのような順番で捨てるかは、捨てるプレイヤーが自由に決めることができます。
- ・選んだ絵師のカードを出すときに、その一部を手札に残してもかまいません。

重要：自分が既に開いている個展に対して、手札から同じ絵師のカードを付け足すことはできません。

自分の個展の枚数を、自分自身で上回るようにして個展を開くことなら可能です。自身の個展を上回った場合も、上回られたほうの個展のカードを全て捨て札置き場に置かなければなりません。

例1：

プレイヤーAは「国芳」のカード2枚からなる個展を開いています。プレイヤーBが「国芳」の個展を新たに開くためには「国芳」のカードが3枚以上必要です。

Bは「国芳」のカードを4枚出して個展を開きました。Aは自分の前にある2枚の「国芳」をすぐに捨て札置き場に置きました。

例2：

プレイヤーAは「北斎」のカード2枚からなり、得点が3点の個展を開いています。その後、山札から「北斎」のカードを引きましたが、これは自分の個展に付け足すことはできません。

Aはその後、自分の手札に「北斎」が4枚たまりました。4枚のうちの3枚を組み合わせると得点が6点の個展を開けるため、A自身の枚数を上回るようにして「北斎」3枚の個展を開きました。既に出していた2枚の「北斎」はすぐに捨て札置き場に置きました。

ラウンドの終了

いずれかのプレイヤーの手番終了時に、以下の2つの条件のうち1つ以上が満たされている場合、そのラウンドの終了条件を満たしたことになります。

- ・全プレイヤーが開いている個展の合計が6つになった(プレイヤーは7人目の絵師カードで個展を開くことはできません。)
- ・裏向きの山札がなくなった(捨て札置き場にどれだけカードがあるかは問いません)

その後、上記のいずれかの条件を満たしたプレイヤー以外の方全員が1回ずつ最後の手番を行って現在のラウンドが終了し、得点計算に進みます。

重要：各プレイヤーの最後の手番では、「②-b 個展を開く」でまだ個展が開かれていない絵師の個展を開くことはできません(裏向きの山札がなくなって終了条件を満たし、開かれている個展が5つ以下だとしてもです)。既に個展が開かれている絵師であれば、枚数を上回るように個展を開くことが可能です。

例：

プレイヤーAは自分の手番で「歌麿」3枚からなる個展を開きました。これで全プレイヤーが開いている個展が合計6つになったため、ラウンドの終了条件が満たされたことになります。その後、プレイヤーB、Cが最後の手番を1回ずつ行ってから得点計算に進みます。

Bがカードを2枚引いた後の手札には、まだ個展が開かれていない「豊国」のカードが2枚あります。しかし最後の手番では、まだ個展が開かれていない「豊国」の個展をこれから開くことはできません。既に開かれている個展を上回るようなカードもないため、カードを1枚捨てて手番を終えました。

Cがカードを2枚引いた後の手札には「広重」のカードが5枚あります。「広重」の個展はC自身が3枚で開いてますが、手札のうち4枚で「広重」の個展を開くと得点が増えるため、「広重」の個展を4枚で開いて手番を終えました。

ラウンドの得点計算

まず、各プレイヤーは手札を全て捨て札置き場に置きます。これらのカードが得点になることはありません。

その後、プレイヤーは自分が開いている各個展から、得点が最も低いカードを1枚だけ脇に避け、それ以外のカードを全て捨て札置き場に置きます。いま脇に避けたカードはそのまま自分の得点として獲得し、手元に置いておきます。獲得したカードは、自分が開いている個展と区別できるように裏向きにしてください。

いま終了したのが1、2ラウンド目なら、次のラウンドを開始します。山札、捨て札置き場の全てのカードを集めて裏向きにしてよく混ぜ、ラウンドの準備を②から行ってください。

このとき、得点として獲得したカードを混ぜてしまわないように注意してください。2ラウンド目以降は、直前のラウンドで個展が開かれていた絵師のカードが1枚ずつ減っていくことになります。

ゲームの終了

いま終了したのが3ラウンド目なら、ゲームは終了します。

3ラウンドの間に獲得したカードの合計得点が最も高いプレイヤーが勝者となります。

同点最多のプレイヤーが複数人いる場合、そのうち獲得したカードの枚数が最多のプレイヤーが勝者です。それも同数の場合、それらの全員で勝利を分かち合います。

浮世絵カードの得点分布 / Ukiyo-e Card Score Distribution

得点 Score	師宣	豊国	国芳	歌麿	写楽	北斎	広重
1 点	1 枚						
2 点	3 枚	3 枚	2 枚	1 枚			
3 点		3 枚	3 枚	3 枚	3 枚	2 枚	1 枚
4 点			3 枚	3 枚	3 枚	3 枚	3 枚
5 点				3 枚	3 枚	3 枚	3 枚
6 点					3 枚	3 枚	3 枚
7 点						3 枚	3 枚
8 点							3 枚
合計 Total	4 枚	6 枚	8 枚	10 枚	12 枚	14 枚	16 枚

出展

菱川師宣

1618 年頃～1694 年

江戸時代初期の浮世絵師。「見返り美人図」で知られ、浮世絵版画の基礎を築いた。武士や庶民の生活、風俗を題材にし、肉筆画だけでなく木版画を発展させた。特に絵入りの草双紙や挿絵本の制作にも関わり、浮世絵の大衆化に貢献した。江戸の町人文化を反映した作風が特徴で、後の浮世絵師たちに大きな影響を与えた。



見返り美人図

(出展元：東京国立博物館)



無題

(出展元：大英博物館)

歌川豊国

1769 年～1825 年

江戸時代後期の浮世絵師。歌川派の祖・歌川豊春の門人で、美人画や役者絵を得意とした。特に錦絵による華やかな美人画や躍動感のある役者絵で人気を博し、浮世絵の発展に貢献した。門人には歌川国貞（後の三代目豊国）や歌川国芳などがあり、歌川派の隆盛を支えた。



役者舞台之姿絵 まさつや

(出展元：ボストン美術館)



役者舞台之姿絵 高らいや

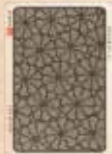
(出展元：東京国立博物館)

二代目

歌川豊国

1777 年～1835 年

江戸時代後期の浮世絵師で、初代歌川豊国の高弟。師の画風を継承しながらも、独自の華やかな美人画や役者絵を描いた。特に歌舞伎役者の似顔絵に優れ、躍動感のある構図と鮮やかな色彩が特徴。門人には三代目歌川豊国（歌川国貞）がいる。



浮世絵文様 美人 ゑり

(出展元：クラーク美術館)

歌川国芳

1798 年～1861 年

江戸時代後期の浮世絵師。武者絵や歴史絵を得意とし、豪快な構図や迫力ある表現で人気を博した。特に「水滸伝」などの武者絵や風刺画、ユーモラスな戯画を描き、奇抜な発想と大胆な構図で浮世絵の新境地を開いた。



みかけはこはゐが

とんだいゝ人だ

(出展元：東京富士美術館)



讃岐院眷属をして

為朝をすくふ図

(出展元：東京国立博物館)



通俗水滸伝豪傑

百八人之壱人

浪裡白跳張順

(出展元：大英博物館)

喜多川歌麿

1753 年頃～1806 年

江戸時代中期の浮世絵師。美人画の第一人者として知られ、特に大首絵（顔を大きく描いた美人画）を確立した。「寛政三美人」などの作品で、女性の優雅な姿や繊細な表情を描き出し、江戸の町人文化に大きな影響を与えた。



咲分言葉の花

(出展元 : Legion of Honor)



文読婦女人

(出展元 : アメリカ議会図書館)



姿見七人化粧

(出展元 : Ohmi Gallery)



婦女人相十品

(出展元 : アメリカ議会図書館)

東洲斎写楽

生没年不詳（活動期間：1794 年～1795 年）

江戸時代後期の浮世絵師。わずか 10 か月ほどの短期間に役者絵を中心とした作品を発表し、独特のデフォルメ表現で歌舞伎役者の個性を強調した。代表作に「三代目大谷鬼次の奴江戸兵衛」があり、その謎多き経歴と作風は後世の研究者の関心を集め続けている。



着屋五郎兵衛

(出展元 : 大英博物館)



市川海老蔵

(出展元 : Asian Collection)



市川高麗蔵

(出展元 : Ohmi Gallery)



大谷鬼次

(出展元 : 国立国会図書館)

葛飾北斎

1760 年～1849 年

江戸時代後期の浮世絵師。風景画や花鳥画、春画など幅広いジャンルで活躍し、「富嶽三十六景」シリーズが代表作。特に「神奈川沖浪裏」は世界的に有名で、動感あふれる波の描写が特徴。90 歳近くまで制作を続け、日本美術史上屈指の画家として評価されている。



亀図

(出展元 : 島根美術館)



諸国瀧廻り

木曾路ノ奥阿彌陀ヶ瀧

(出展元 : 大英博物館)



お岩さん

(出展元 : MFA Boston)



鶇 翠雀 虎耳草 蛇莓

(出展元 : 大英博物館)



諸国滝廻り

下野黒髪山きりふりの滝

(出展元 : MFA Boston)

歌川広重

1797 年～1858 年

江戸時代後期の浮世絵師。風景画を得意とし、「東海道五十三次」が代表作。繊細な構図と情緒的な表現で、日本の風景美を描き出し、後の印象派画家にも影響を与えた。特に雨や雪の風景描写に優れ、旅情を感じさせる作風が特徴。



名所江戸百景

水道橋駿河台

(出展元 : 国立国会図書館)



名所江戸百景

駿河薩タ之海上

(出展元 : MFA Boston)



名所江戸百景

深川洲崎十万坪

(出展元 : 国立歴史民族博物館)



名所江戸百景

亀戸梅屋敷

(出展元 : 大英博物館)



名所江戸百景

深川万年橋

(出展元 : 国立国会図書館)



名所江戸百景

大はしあたけの夕立

(出展元 : wikipedia)